

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	加須市		代表者名	角田 守良	
担当者部署	総合政策部		連絡先電話番号	0480-62-1111	
担当者役職	主幹	担当者氏名	松井 義典	連絡先E-mail	
住所	347-8501 埼玉県加須市三俣二丁目1番地1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	川口 弘行
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	・自治体が抱える課題や事務の特性を踏まえた的確な助言をいただいております、事業における課題や問題点の解決に繋がっているため。
アドバイザーへの要望事項	・引き続き本市の生成AI活用に向けた支援をお願いいたします。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（応募依頼より）	支援内容（応募依頼より）	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和5年12月14日	支援・助言	有	令和5年12月13日	1086
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和5年12月20日	支援・助言	10時00分	11時20分	0
				活動時間（分）	80

4. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/
------	---------------------------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	職員	3人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	・生成AIの試行運用を令和6年1月から開始するにあたり、生成AIを活用するにあたっての職員向けガイドラインを作成しており、具体的な運用方法やリスクヘッジなどに頭を悩ませている。 ・生成AIの利用に向けた職員研修を開催予定であるが、生成AIのメリット・デメリットや活用方法について、豊富な知見を有する方に助言及び講演を実施いただき、最大限、職員のマインド醸成を図りたい。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	・生成AIを活用するにあたってのルールや活用方法の重要性を認識し、ガイドラインやマニュアルを作成して試行運用を開始する。 ・職員向けの講演を通して、多くの職員が生成AIの概要やメリット・デメリット及び活用方法を学び、適切かつ効果的な生成AIの運用に向けた職員のマインド醸成を図る。	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	・生成AIの活用方法及び先行自治体における生成AI利用の現状や自治体における生成AIの活用事例について、具体例を交えながら説明いただくとともに、それらを踏まえた、本市のガイドラインや講演内容の素案について助言いただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容（具体的にご記入下さい）	・ガイドラインについて、利用者にとってわかりづらい表現を指摘いただいたため、該当箇所の修正を検討する。 ・生成AIの活用においては、単に正解を求めるのではなく意見の一つとして捉え、職員はそれらの情報を精査した上で適正に意思決定できる能力が求められることを認識した。（この内容は講演でも説明いただきたいと感じた。）	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	◎途中段階であり、具体的な成果物はできていない

改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	【持ち越しとなった内容】 ・アドバイザーから研修資料をご提供いただき、その中から本市がより一層理解を深めたい内容を精査し、講演内容の具体化を図る。
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 講演は未開催のため記載なし
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい ④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	・各職員がガイドラインを理解し、適正かつ効果的に生成AIを活用し、業務効率化を図る。 ・試行しながら本市に適した生成AIツールを選定し、費用対効果を勘案した予算確保等、本格的な業務利用を推進する。

なお、〈その他〉を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

